

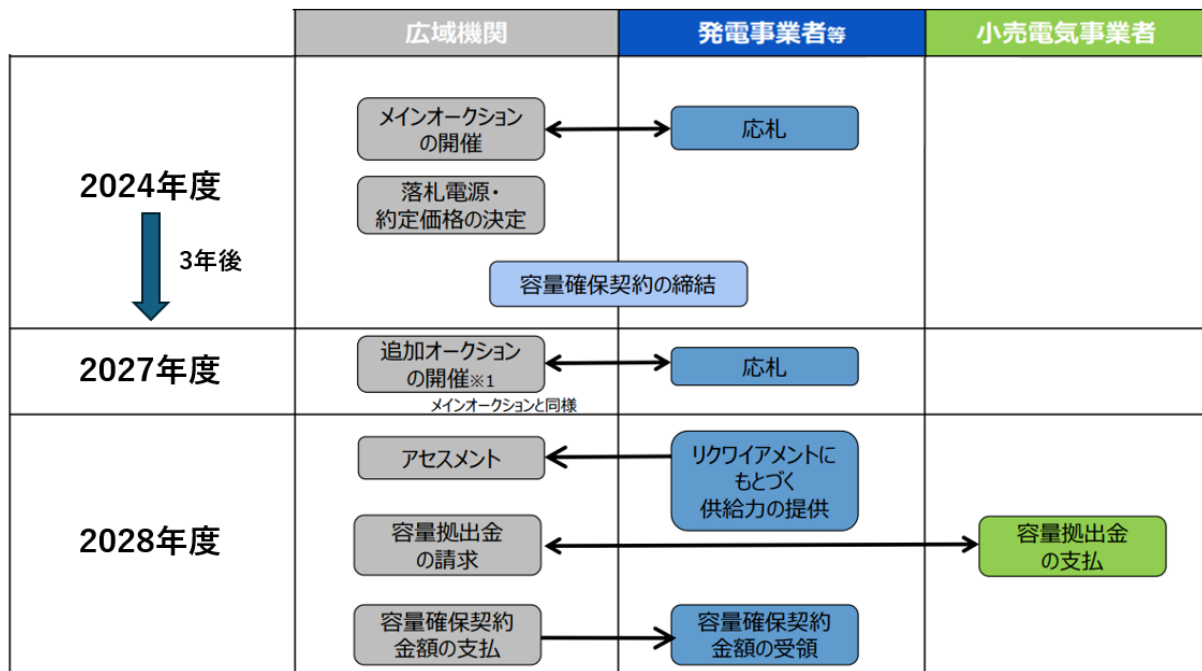
容量市場とは

→ 実際に発電された電力量(kWh)を取引する「卸電力市場」ではなく、将来の供給力(kW)を確保するための市場。

→ 容量市場の落札電源および約定価格は、実需給年度の4年前に行われるオークションにて決定。

容量市場の仕組み

【2024年に応札、落札した場合】



① 電力広域的運営推進機関(OCCTO)が、4年後使われる見込みの電気の最大量(最大需要)を試算。

② その需要を満たすために必要な「4年後の電力の供給力」を算定。

③ その調達量をまかなうために、「4年後に供給が可能な状態にできる電源」を募集。これはオークション方式でおこなわれ、価格が安い順に落札される。

④ 発電事業者は電力を供給可能な状態とするよう発電所のメンテナンスなどをおこない、広域機関から対価を受け取る。

→ 発電事業者は**4年後に受け取れる収入を確定できる。**

⑤ 小売電気事業者は、将来必要となる電源の容量を確実に確保する対価として、広域機関にその費用を支払う。

この容量市場はアメリカやヨーロッパなどでも実施されている。

容量市場の目的・メリット

・供給力の確保により電力取引価格が安定し、電気事業者の安定した運営や電気料金の安定化にも繋がる。

【2020から2022年度の容量市場メインオークション応札容量の推移】

	容量を提供する 電源等の区分	2026年度 (kW)	2025年度 (kW)	2024年度 (kW)
全国	計	176,175,347	177,250,681	172,017,156
	安定電源	165,488,633	166,818,171	163,114,237
	変動電源（単独）	4,302,265	4,393,506	4,512,543
	変動電源（アグリゲート）	486,965	380,603	239,758
	発動指令電源	5,897,484	5,658,401	4,150,618

*安定電源 - 火力・原子力、大規模水力（揚水式、貯水式、自流式）、地熱・バイオマス・廃棄物

*発動指令電源 - 蓄電池

【各エリアにおける容量拠出金総額】

2020年度容量市場メインオークション（対象実需給年度：2024年度）

- ・約定総容量は1億6,769万kW（167,691,648kW）
- ・約定価格は全エリア平均14,137円/kW
- ・約定総額は1兆5,987億円（1,598,741,200,454円）

エリア	容量拠出金（円）	
	一般送配電事業者	小売電気事業者
北海道	4,225,832,040	46,308,918,990
東北	11,445,032,460	125,420,763,536
東京	44,913,249,000	492,183,312,030
中部	20,696,568,000	226,804,019,142
北陸	4,164,675,378	45,638,731,704
関西	22,342,114,800	244,836,797,713
中国	8,831,666,640	96,782,108,496
四国	4,164,760,200	45,639,661,229
九州	12,906,515,520	141,436,473,576
計	133,690,414,038	1,465,050,786,416